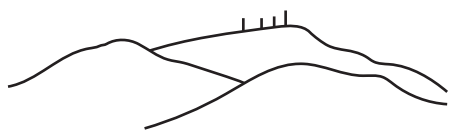


# Youth Manna

2022/4/25 - /5/1



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/4/25(月)

## ダニエル 10 章

19 節「特別に愛されている人よ、恐れるな。安心せよ。強くあれ。強くあれ。」

ダニエルは神様から戦いに関するみことばを受け取る。1 人の人がイスラエルの民に終末に起こることを伝え (12-14v)、また最後に御使いがダニエルが霊的に戦う相手がペルシアだと言うことを告げる。(20-21v)

毎日の学校や生活、色んなところで私たちに戦いがある。そして、イエス様が来てくださる終末まで、私たちは見えないものと戦わなければならない。神様は私たちをダニエルと同様に、1 人 1 人を愛してくださっている。そんな神様に一切のことを委ね安心して、日々歩む者となれるよう、共に祈っていきましょう！

2022/4/26(火)

## ダニエル 11:1-19

今日の箇所にはギリシア時代に関する預言が書かれているよ！旧約聖書が最後に書かれてからイエス様が現れるまでの時間 (400 年あるよ) を「中間時代」と呼びます。この時代にイスラエルを取り巻く世界情勢は大きく変化するんだけど、ダニエルを通してこれらのことは正確に預言されていたんだ。

例えば、3 節の「一人の勇敢な王」とはアレキサンダー大王を指していて、彼の死後、帝国が 4 つに分割されること、南 (プトレマイオス朝) と北 (セレウコス朝) との戦いが続くこと、北の王によって 16 節「麗しい国：イスラエル」が支配されること、などが詳しく書かれているんだ。

神様は世界の国々の将来のことをご存知なお方で、神様は私たち一人ひとりの将来にも目をとめて下さっている方だよ！今日の 1 日も神様の御手の中にあることを覚えて、イエス様を愛して歩もう！

2022/4/27(水)

## ダニエル 11:20-45

ここからは、いよいよ最終段階に入る。20 節の人物はアンティオコス 3 世であるが、21 節の「一人の卑劣な者」がこの章の中心人物で、アンティオコス 4 世である。彼は、本来は王位を継ぐ立場ではなかったが、「巧みなことばを使って」王権を奪い取り、人を欺くような者であった。彼は、エルサレムを略奪して「多くの財宝を携えて自分の国に」帰る。また、彼はユダヤ民族に敵意を向け、迫害した。この迫害に対して、「自分の神を知る人たち」は自分たちの命をかけて信仰を守ろうとした。

この箇所にあるように、神の民も迫害に直面している。その中で、神への信仰によって歩んだ姿に倣うことができるように。

2022/4/28(木)

## ダニエル 12 章

今日の箇所では、終末の出来事について述べている。1 節「かつてなかったほどの苦難の時がくる」しかし「あの書 (黙示 20:15) に記されている者はみな救われる」。そして、ダニエルがこの不思議なことはいつ終わるのかと質問すると、7 節のような「一時と二時と半時」という答えがかえってきて、再びダニエルが質問したことには明確な答えはなかった。

しかし「一時と二時と半時」とあるように、苦難や試練はいつまでも続くものではない、ということは理解できる。

私たちが理解できない領域、事柄は存在する。だからこそ、それを信じることができるかどうか重要なのである。

神様の計画を信じ、期待しよう！！

今日も神様とともに歩む選びをしよう！！

羊肉の日

2022/4/29(金)

## 詩篇 120 篇

信仰者には苦しみがあった。平和の君と呼ばれたイエスが世にあって苦しみを受けたのと同じように、信仰者は正義や平和を求めるとき、しばしば苦しみを受ける。しかし、死を打ち破り、世に勝利したイエスが信仰者とともにいてくださる (ヨハネ 16:33) からこそ、勇気を出して主に従うことができる。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

ヨハネ 16:12

今日、この御言葉にどのように従おう？

2021/4/30(土)

## 詩篇 121 篇

みんなは最近、何かがうまくいかなかったことや困ったこと、辛かったことはあるかな？

今日の箇所では、山を見上げてそれをつくられた神様からこそ助けが来るとうたっているね。どこにいても、何をしているときも神様は私たちを守ってくれる。それはただの安全ってだけでなく、7 節にもあるように私たちの心、たましいといった内側の部分のことも守ってくださるという意味なんだ。

今もし苦しいことがあれば神様に助けを求めよう。友だちや家族に話して祈ってもらおう。私の助けは主から来る、と宣言しよう！

2021/5/1(日)

## 哀歌 1 章

イスラエルの民は神に逆らい、自分たちが栄えること、偶像、他の国々の力を頼りとしてきましたが、結局、それは何の役にも立ちませんでした。神以外のものを振り所とした結果、自分たちの罪によって神のさばきを受けたのです。

しかし、このような苦しみの中であって、哀歌の作者は「主は正しいお方」と告白します。困難や苦しみを通るときに、私たちの目はどこに向くでしょうか。また、まだ神様を知らない人たちが色々な物を振り所にする中であって、私たちはその人たちのために何ができるでしょうか。

自分の信仰がどこに向いているのか、自分のための信仰になってはいないか、静まり考えてみよう。